

5.脳梗塞の ICD-10 別患者数

脳梗塞の病型別に「患者数」「平均在院日数」「平均年齢」「転院率」を集計しました。

定義

◇集計期間に退院した症例

◇最も医療資源を投入した傷病名の ICD-10 コードが下記に該当する症例

◇転院率は同じ ICD-10 コードごとに計算

他の診療所または病院に転院した患者数／全退院数

ICD-10	傷病名	症例数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45\$	一過性脳虚血発作および関連症候群	7	5.1	67.6	0%
G46\$	脳血管疾患における脳の血管(性)症候群	-	-	-	-
I63\$	脳梗塞	105	31.8	75.1	43.8%
I65\$	脳実質外動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	2	13.0	74.5	0%
I66\$	脳動脈の閉塞および狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	1	3.0	65.0	0%
I675	もやもや病 (ウイリス 動脈輪閉塞症)	1	47.0	49.0	100%
I679	脳血管疾患、詳細不明	-	-	-	-

解 説

一人一人の患者さんの病状、年齢、社会的な背景等に合わせて、様々な治療を行っております。超急性期脳梗塞の患者さんには t-PA による血栓溶解療法や、カテーテルによる血栓回収術も行っています。また、必要に応じて血行再建術も行っております。

入院中は脳神経外科と神経内科（脳卒中科）の医師が協力しながら、入院早期から充実したリハビリテーションの実施や薬剤師による服薬管理、栄養サポートチームによる回診、退院支援室による退院サポートなど、他職種によるチーム医療で早期退院に向けた取り組みを行っています。

脳梗塞の患者さんは全国的な高齢化に伴い平均年齢が上がっています。上記症例のうち、自宅退院の患者さんの平均年齢は 70.1 歳ですが、回復期病院等へ転院する患者さんの平均年齢は 77.1 歳で、年齢とともに継続的なリハビリが必要な患者さんが多くなります。必要に応じて連携する後方支援病院への転院も調整しています。